



新年のあいさつ

JR東労組 中央本部
中央執行委員長 山口 浩治

12地本の総団結で職場運動を強化し、 JR東労組の未来を展望しよう！

組合員・ご家族の皆さんあけましておめでとうございます。
昨一年間、JR東労組にとって非常に厳しいたたかいを余儀なくされましたが、職場第一線で奮闘していただいたすべての仲間にご敬意を表します。JR東労組は第35回臨時大会、第36回定期大会を経て「組合員の信頼回復」「組織強化・拡大」を掲げ、組織存続の危機を乗り越えるためのたたかいを展開してきました。しかし、まだ道半ばです。私たちは、これまでの教訓からも取り巻く情勢の認識を深め、その中で労働組合としてどのようなたたかいを進めていくのか職場の組合員と共に議論を深めていかなければなりません。

《安全で働きやすい職場をつくり出すために》

今、日本を挙げてオリンピック・パラリンピックの成功に向けた様々な取り組みが行われています。JR東日本も「東京2020オフィシャル旅客鉄道サービスパートナー」として、スムーズにご利用いただくための情報提供と快適な旅客鉄道サービスの提供を通じて成功に貢献すると表明しています。
私たちは労使の共通認識として「申5号 安全・安定輸送の確保」を目指し、職場の不安解消を求め「申し入れ」を行いました。安全・安定輸送の確保とサービス品質の向上は労使の共通認識であること、また、試験・昇進・転勤などにおいては組合加入の有無、所属組合で差別はないことを確認しています。しかし現実には「不当労働行為」や「パワハラ」ともいえるような事象が職場で発生しています。鉄道輸送を担う私たちは、安全を絶対的な価値基軸として日々

の業務に取り組んでいますが、その下支えとなる「安心」には会社のマネジメントが大きく影響します。職場から排除されるべき不当労働行為や、パワハラなどのハラスメント行為に対しては、当事者を組織で包み、組織全体の課題として立ち向かっていきます。
2018年6月29日に「働き方改革関連法」が成立し、2019年4月1日から順次施行になります。残業時間の上限規制、一人1年あたり5日間の年休取得を企業に対して義務化、フレックスタイム制の清算期間（労働時間の調整期間）の3ヶ月への延長など、組合員の働き方に大きな影響が予測されます。今後、36協定への反映や就業規則の変更などに議論を要します。法的規制を盛り込むだけでなく、職場実態を反映させる議論づくりを強化していくこととします。

職場では要員不足が深刻になっています。一方、会社は「変革2027」を掲げ、少子高齢化という厳しい情勢の中でも、会社の持続的成長を遂げていくために新たなステージに向かっており、その具体的な取り組みとして様々な施策が打ち出されています。私たちはJR東労組発足以来「安全・健康・ゆとり・働きがい」を担保して施策に取り組んできました。今後もより深刻化する要員問題に向き合っていくために、新しい技術の導入や仕事の仕組みを変えることによる、効率的な業務運営が提案されることは明白ですが、目指した姿と乖離しているのが職場現実です。私たちは「机上の論理」ではなく「生き残るべきもの」を明確にしながら職場に見合った施策をつくり出していかねばなりません。会社は「時間軸」を意識します。否定はしませんが、時間縛りをかけ職場を振り回すような進め方は許せません。真摯な議論で施策を進めるために、これまで労使で合意してきた「確認メモ」に基づき取り組んでいくこととします。職場では、安全に関する課題も山積しています。厳しい組織現実ではありますが、事実を正確につかみ出し、原因究明委員会の議論を積み

重ねていきます。私たちは技術継承や技能伝承に対して警鐘を鳴らし続けていますが、今までに経験のない事象が起きているのも事実です。現実を掘り下げる力をつけて、原因・背後要因をえぐり出し、再発防止に向けた議論をつくり出しましょう。

《18春闘の反省を踏まえ、 新生JR東労組を全組合員で創り出そう》

18春闘では「格差ベア永久根絶」を掲げ「確立しているスト権のもと、あらゆる戦術を行使し、全組合員とたたかい抜く」ことを決定しました。具体的には指名スト、非協力闘争をたたく意思統一を行い、全地本で組合員と議論を重ねていただきました。しかし、非協力闘争の予告以降、労使共同宣言の失効もあり、労使関係の再構築が大きな課題となると共に、残念ながら組合からの支援をいただくこともできず、「指名ストについては避けてください」という指導もあり、原則的なストライキの意義が社会的には受け入れられづらくなっている現実も明らかになりました。

19春闘は、昨年の18春闘における確認事項を整理し、諸教訓をもとにたたかっています。連合方針を受け、JR総連と共に「JR春闘」を練り上げていくこととします。

平和問題、政治問題について労働組合の課題とは無縁ではないかという声もあります。しかし、平和についても、政治についても多くの「社会的弱者」と言われる方々が犠牲になっています。労働組合は、弱者の声を基にたたかう組織です。JR総連と共に、また他の産別の仲間と共に連帯して声を上げることを通じて、安心して暮らせる社会を目指していきます。

昨年の臨時大会では、向こう2年を展望し、組織拡大・強化を目指すことを確認しました。組合員の絆を深め、組織の強化を通じて新しいJR東労組運動を強化し、組織と組合員への求心力を高めていきましょう。中央本部は、最前線で奮闘することを明らかにして年頭のご挨拶とします。今年もよろしくお祈りいたします。
2019年元旦

